

# マイコプラズマ性肺炎

～マイコプラズマ性肺炎とは～

マイコプラズマという微生物の感染によって起こる慢性の呼吸器病です。感染した豚の咳やくしゃみにより他の豚に感染します。発育の遅延や飼料効率の低下があり、経済的な被害も大きくなります。ほかの呼吸器病も誘発します。

写真2のように、肺の辺縁に特徴的な病変が見られます。

～食肉検査では～

マイコプラズマ性肺炎のことを一般的にSEPと呼んでいます。肺にSEPの病変がみられた場合は、肺を廃棄します。SEPが主な原因で全部廃棄になることはありません。

※SEP：Swine enzootic pneumonia（豚流行性肺炎）

～予防・対策～

対策は、オールイン・オールアウトとその後の畜舎消毒で感染源を断つことができます。

予防には、ワクチン接種をしましょう。ワクチンは病変を軽くする効果があり、飼料効率の改善が期待されます。



写真1 正常な肺



写真2 SEPの肺

当所におけるSEPによる肺の廃棄率（豚）

	H27	H28
検査頭数(頭)	187,896	180,933
廃棄頭数(頭)	25,311	19,834
廃棄率	13.5%	11.0%

リーフレットの内容に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

北海道東藻琴食肉衛生検査所

TEL 0152-66-2001 FAX 0152-66-3576

HP <http://www.okhotsk.pref.hokkaido.lg.jp/ds/hse>